



第6章

計画の評価・見直し

6-1. 目標値の設定	83
6-2. 評価と見直し	84





6-1. 目標値の設定

将来にわたってコンパクトで質の高い市街地の維持を目指して、20年後に達成すべき目標値を設定します。

【指標】

項目		現況値	すう勢 ^{※1}	目標値 (2035年度)
居住誘導区域に関する事項	居住誘導区域内の人口密度(人/ha) ^{※2}	68.0 (2015年度)	58.5 ^{※3} (2035年度)	62.6 ^{※4}
	公共交通利用者数(千人/年) ^{※5}	19,947 (2016年度)		19,947 (現況値以上 ^{※6})
都市機能誘導区域に関する事項	中心拠点	中心市街地周辺 (旧三島町地域)	5,653 (2018年度)	5,653 (現況値以上 ^{※8})
	地域拠点	三島萩 IC 周辺 (北上地域)	175 (2018年度)	175 (現況値以上 ^{※8})
		幸原町・徳倉周辺 (北上地域)	195 (2018年度)	195 (現況値以上 ^{※8})
		谷田地区遺伝研坂下周辺(錦田地域)	181 (2018年度)	181 (現況値以上 ^{※8})
		大場駅周辺 (中郷地域)	大場駅の利用者数 (千人/年) ^{※9}	898 (2016年度)

※1…「すう勢」とは、過去のデータを基に算出した将来の予想値や推計値のことをいう。

※2…「静岡県の都市計画」や「都市計画基礎調査」などにより値を確認

※3…国立社会保障・人口問題研究所による2035年推計値を活用し、算出

※4…「住むなら三島・総合戦略」の将来人口の目標値を活用し、算出

※5…「三島の統計」による値及び各事業者から提供された値を確認(鉄道及び路線バス(市自主運行バス・市内循環バス含む)の年間利用者数)

※6…本市の人口は減少傾向にあり、この傾向は続くものと予測している(「第2章2-1(2)人口」参照)。公共交通利用のベースとなる人口が減少すると、公共交通利用者数も減少していくことが懸念される。将来人口が減少する中で、公共交通利用者数が現状維持されれば実質は増加していると考えられる。これより、目標値としては、公共交通利用者数の現況値以上とした(三島市地域公共交通網形成計画の指標と同様の考え)。

※7…「三島の統計」により値を確認(午前7時～午後7時の12時間)

●中心市街地周辺…市道鎧坂線、小山三軒家線及び南本町1号線の合計歩行者数

●三島萩IC周辺…市道徳倉末広山線の歩行者数 ●幸原町・徳倉周辺…市道幸原萩線の歩行者数

●谷田地区遺伝研坂下周辺…市道錦田大場線及び小山東富士見線の合計歩行者数

※8…歩行者数においても上記「※6」と同様の考え

※9…「三島の統計」により値を確認(大場駅の年間利用者数)

「地域拠点-大場駅周辺(中郷地域)」は、他の地域拠点とは異なり区域内に鉄道駅が存在すること、また、区域内やその周辺に歩行者数の観測地点が不足していることから、上記のとおり、大場駅の年間利用者数を指標として設定した。



6-2. 評価と見直し

(1) 計画の進行管理

本計画は、20年後を目標としたものであり、長期的な視点に立って継続的な取り組みが必要です。そのため、総合計画や都市計画マスタープラン等の上位計画の見直しに際して整合性に配慮するとともに、定期的に計画の進捗状況をチェックしながら、必要に応じて計画の見直しを行い、計画内容の充実を図っていきます。

そのため、以下のようにPDCAサイクルに基づき、計画の進行管理を行っていきます。





(2) 地区別の評価と検証

三島市全域において、地区別に概ね5年ごとに以下の評価をし、必要に応じて見直しを行います。

【検討の流れと評価項目・基準】

	評価項目	備考
ステップ1	① 地区別人口密度が、市街地の人口密度の基準である40人/haを下回っている。 ^{※1} ② 地区別の高齢化率が、50%以上となっている。 ^{※2}	①かつ②の状況となった場合に「ステップ2」へ進む。
ステップ2	地区の人口密度の維持のため、「安全・安心」かつ「快適で利便性の高い」居住環境づくりに向けた地元の主体的な活動の可能性に関する地区住民との協議・調整を行い、課題の抽出・解決の検討 ^{※3} を行う。	

※1…都市計画運用指針で、既成市街地の人口密度の基準で1ha当たり40人を下回らないこととすべきである旨の記載がある。

※2…国土交通省の「平成27年度過疎地域等条件不利地域における集落の現況把握調査報告書」における集落機能（コミュニティ維持活動）の維持に関する考え方を参考。

※3…必要に応じて地区計画などの解決手法の検討を行う。

